

インドのコットン栽培における 環境・人権課題および環境に配慮した 活動に関する普及啓発活動

〒110-0015
東京都台東区東上野1-6-4
あつぎビル3F
電話:03-3835-7555
E-mail:ngo@acejapan.org
http://acejapan.org/



ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発



オーガニックコットンに関する主催イベント

ワークショップ、イベント
参加人数

1,174人

英語版映像DVDの配布数

89部

今年度計画の達成度

80%

活動の全体目標に対する達成度

70%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

活動により消費者の意識の向上や行動の変化は感じることができたが、それを企業関係者に伝えたり、企業にわかりやすい行動を促すことが思うように進まなかった。

■ 工夫した点

担当職員が若手プロジェクトリーダー研修を受けていたため、マーケティングや他者との協働など研修で学んだことを助成活動の中でも活かせるよう意識して活動に取り組んだ。

課題

インドのコットン生産地では、過剰な農薬や化学肥料、遺伝子組み換え品種の投入などを要因として、土壌の質の低下等の課題や生産者の健康・人権侵害の課題が起きている。

目標

●意識が高まった消費者が企業に対し、オーガニック等エシカルなコットン製品を求める声をあげる。●企業担当者がエシカルコットンに対する需要、必要性を把握する。

活動内容と成果

●インドのコットン生産地の環境や人権の問題について考え、解決のための行動を促すワークショップや啓発イベントを実施し、1,174名が参加した。●消費者教育研修会等の実施(23名が参加)やワークショップ教材普及(教材販売97件)を通じ、エシカルコットン啓発活動の担い手育成を行った。●インドのコットン生産地と工場視察ツアーを実施し、4名が参加した。●持続可能な繊維の普及啓発を行う米国団体の国際会議へ参加し、情報発信と企業向けの啓発を行った。●教材映像DVDの英語版を制作し、89部配布した。

全助成期間の活動を振り返って

持続可能な開発目標(SDGs)への関心が高まる中で、オーガニックコットン栽培への移行は環境や人間の健康の問題解決に寄与するだけでなく、農家の収入増加による貧困問題解決、安全な水質資源の確保とその水が流れ込む海洋の保全、気候変動防止など、17の目標すべての達成に貢献するということがわかった。活動の中で、今後オーガニックコットン等のエシカルなコットンへの関心はさらに高まると感じられた。



インドのコットン畑を視察するツアー参加者



国際会議の場で一緒に登壇したメンバー

今後の展望

日本の企業の、他社が取り組んでいないと新しいことを始めにくい傾向や、一つの製品が完成するまでに多数の工程と企業が関係するコットンのサプライチェーンの特性を考慮し、国内外の先進的な企業や事例を伝え、連携が生まれる企業関係者向けのイベントの実施など、業界や取引先同士がともにエシカルな調達への取組みを行っていきけるような働きかけを行う。また、今までの活動で構築した消費者との関係性も企業への働きかけへ活かす。